
議題	基準諮問会議からの報告
項目	議事要旨 3 (企業会計基準とサステナビリティ基準のコネクティビティ(連携)について)

(議事要旨 3) 企業会計基準とサステナビリティ基準のコネクティビティ(連携)について

FASF 渡部企画・開示室長より、サステナビリティ報告に関する動向についての報告が行われ、次の点について、意見交換を行った。

- (1) 企業会計基準委員会(ASBJ)とサステナビリティ基準委員会(SSBJ)の連携
- (2) ASBJ の基準諮問会議と SSBJ の基準諮問会議の連携

これに対し、基準諮問会議委員より、以下の意見が聞かれた。

ASBJ と SSBJ の連携

- 両者の連携は必要であると考えており、相互に矛盾がないように基準開発を行って頂きたい。両方の領域に精通した方は少なく、十分にコミュニケーションをとって両者の整合性をとる必要があり、例えば、委員長や一定割合の委員を兼務するなどの、何らかの仕組みが必要と考える。
- ASBJ においては、リースや金融商品といった重要なテーマの検討を行っているが、サステナビリティ報告への対応によって、ASBJ の活動に支障がでないように、スタッフの増員などの対応も検討して頂きたい。
- 両者で検討する内容について、それぞれの責任範囲を明確化する必要があり、責任範囲をどのように決めていくか検討する必要があると考える。
- SSBJ においても今後、専門的なテーマの検討においては専門委員会を設置することになるのではないかと考えられるが、その際に、例えば、ASBJ のディスクロージャー専門委員会を活用することも考えられるのではないかと。

ASBJ の基準諮問会議と SSBJ の基準諮問会議の連携

- 現状においては、サステナビリティ報告に関する知見を有する者の母集団自体が少ないと考えられるが、一方で、サステナビリティ報告に関する知見を有する者は、基準開発には慣れていない可能性がある。スタート時点では、基準諮問会議を両者で分けること

審議事項(2)参考資料3

には賛成するが、一定割合での兼務が必要と考える。

- 本来は、両者の基準諮問会議は1つにすることが望ましいと考えられ、将来的には、両者の基準諮問会議を統合する方向で検討すべきと考える。
- 今後、両者に関係するテーマ提言も出てくる可能性があり、テーマの検討についてもそれぞれの検討する責任範囲を明確にし、連携できるようにする必要があるのではないかと考える。
- サステナビリティ報告の動きは非常に早く、テーマについての議論をするのであれば、SSBJの基準諮問会議は、現状のASBJの基準諮問会議より開催頻度を上げる必要があるのではないかと考える。
- サステナビリティ報告は分野が多岐にわたる上に、特定の業種については深い議論が必要であり、SSBJの基準諮問会議の委員は、業種を踏まえて選任して頂きたい。

以 上